

【入選】

みんなの水

仙台市立郡山中学校
三年 半澤華蓮

「昔は、メダカも田んぼにいたんだよ。」

祖母と祖父の家にあるメダカの水槽をじつと見ていたときに叔父が言った。小学三年生のとき、私はメダカに夢中だった。叔父は、生き物が好きで、物知りだったので、メダカを飼いたいと言ったときメダカについて色々なことを教えてもらった。そのときに野生のメダカがいるということを知ったのだ。さらに、メダカはどんどん減ってきていると言われた。まだ三年生だったので、自分がなんとかできるかもしれないと思い、「なんでメダカが減っているの。」と聞いた。すると叔父は「メダカがすんでいるところの水がよれてすめなくなったからだよ。」と答えてくれた。わが家に帰って、メダカの話をしていたとき母にメダカは絶滅危惧種なのだと教えてもらった。

やっと念願のメダカを飼うことができ、大切に育てようと思った。しかしメダカは2日で死んでしまった。あまりにもお別れが早かったので悲しくなりメダカへの熱も完全に冷めて忘れてなくなった。

六年生になり、またメダカを飼いたいと思った。六年生になってインターネットで調べられるようになり、飼いや種類などを自分で調べた。そして、野生のメダカがいるという話を思い出した。同時に、青メダカはあまり強くない種だから早かったのかもねという叔父の電話の内容も思い出した。そこで、「野生で生きているメダカならきつと強いだろう。もうあんな思いもしない。」という考えが浮かんだ。すぐに野生のメダカはどこにいるのかということ調べた。野生のメダカについて調べていくと、絶滅危惧種という文字を何度も見かけた。絶滅危惧種に指定されてい

る理由は水が原因だということは分かっているが何故水がよれたのかは詳しく知らなかったので調べることにした。水がよれたのは家庭排水の流入、水田における水管理の変化、ポイ捨てなどが原因だそうだ。水質の悪化が主な原因だが、それ以外に外来種による生態系崩壊も関係しているらしい。このようにメダカが絶滅危惧種2種に指定されているのは、水が大きく関係している。さらに、サイトを見ていると野生のメダカの写真が載っていた。名前は「キタノメダカ」と「ミナミメダカ」で日本にすむ野生のメダカらしい。キタノメダカはおもに青森県から兵庫県にかけての日本海側に分布していて、ミナミメダカは東京をふくむ東北地方の太平洋側から南日本、沖縄に分布していて、自分自身が住んでいるところにはミナミメダカが住んでいるらしい。鮮やかさは観賞用メダカに及ばなくとも、透き通っていて綺麗だと思った。それと同時にこんな綺麗なメダカが絶滅してしまうのは、とてももったいないと思った。

水は人間にとっても、他の生物にとっても生きるために大事なものだ。それなのに他の生き物が住んでいる川にゴミを捨てていたり汚れた水を流していることがある。川で捨てたゴミは海に流れていき、海の生き物も、人間も困っている。綺麗な水は、いくらでもあるわけではないし、人間だけのものでもない。水質悪化の原因は、人間の生活排水だそうだ。飲み物は必要な分だけ注ぐ、細かいごみは流さずに捨てる。風呂の残り湯で洗濯をするなどの工夫をすることで汚れた水の量を減らすことができる。さらに日本では水質汚染対策として河川の水質浄化が行われているそうだ。私は「水は人間だけのものではなく、全ての生き物が必要としている」ということを忘れず、水を大切にしようと思った。